

早稲田大学語学教育研究所編

外国学生用

日 本 語 教 科 書

初 級 (改訂版)

早稲田大学語学教育研究所

早稲田大学語学教育研究所編

外国学生用

日 本 語 教 科 書

初 級（改訂版）

早稲田大学語学教育研究所

刊行のことば

早稲田大学の語学教育研究所は、言語一般ならびに各国語についての基礎的研究調査と、言語教育に関する研究を行なうとともに、諸種の語学講座を設置して実際の教育を行なっている。外国学生に対する日本語教育もそのひとつである。

本研究所の日本語授業は、アジア地域をはじめ世界各国から早稲田大学へ留学してくる外国学生を主たる対象としている。これらの外国学生の専攻・母国語・学習経歴はさまざまであるが、多くのものが学部または大学院の課程を日本人学生と同等に履修することを目的としているのである。このような外国学生に対する日常の授業と、日本語および日本語教育についての研究活動の成果のひとつとして、「外国学生用日本語教科書」がここに形を成したのである。

この教科書は1964年から作成にかかり、実際の授業に使用しながら検討修正を加えること数度、このたびようやく印刷するに至ったのであるが、今後にも必要な改訂を随時に加えることのできるよう、製本しないまま世に出すことにしたのである。もともと学内の授業に使用することを意図して作成されたものであるから、学外の教育機関の実情に合わない点多々あることと思われる。それをあえて公にするのは、日本語および日本語教育についての基礎的な研究調査・実験を経て作成されたこの教科書が、一般の日本語教育資料として、多少なりとも参考になるところがあるかと思うからである。また、将来改めるべき諸点を、同学の諸先生から指摘していただくことも期待できるからである。

なお、「外国学生用日本語教科書」は、本研究所の研究員であり日本語授業担当者であるものが、「初級用」と「中級用」をそれぞれ分担して作成した。そのうち「初級用」の本書は、主として森田良行、秋永一枝、田村すゞ子の3名が担当した。

1967年 5月

早稲田大学語学教育研究所

再版にあたって

早稲田大学語学教育研究所が外国学生用、日本語教科書・初級(初版)を公にして、すでに5年になる。その間、この教科書は早稲田大学に学ぶ留学生の日本語教育に使用されてきた。

本来、この教科書は、必要に応じて改訂することを予想し、製本もしないまま世に出されたものである。その後、5年間の使用経験によって、部分的に改訂を要する点も見出され、また、5年という歳月の流れに合わせる必要も生じた。このたび版を改めるにあたって、初級授業にたずさわった各教員の意見を取り入れ、多少の修訂を試みた。もとより、文型の配列や文法事項の扱いなどを改めることは教科書そのものの全面的作り変えになり、短時日では到底なし得ぬことである。今回は組織立ての基本線はすべて初版のままとし主として本文の改訂に意を注いだ。また、各課ごとに正書法に準じた表記による本文を用意した。

なお、この改訂版作成の作業担当者は森田良行である。

1971年10月

早稲田大学語学教育研究所

1. この教科書は、早稲田大学語学教育研究所において日本語を初歩から学ぼうとする学生を対象として編集したものである。したがって、本書は、適当な指導者のもとに教室において学習することを予定して作成したものである。
2. 本書は、日本で日常生活、特に学生生活に必要な日本語の基礎を与えることを目標とした。ただし、本書は、さらに当研究所編の中級教科書へと進むことを予定して作成してあるので、本書のみで日本語の学習が完了するわけではない。
3. 本書は、早稲田大学の学年暦に合わせて、前期または後期の1学期間をもって全課が終わるよう編集してある。学習に要する時間としては180時間を予定している。
4. 本書は40課から成っている。各課は、文型を基盤とし、それに基礎的な文法事項を盛りこんで作成してある。それらの配列は、言語生活において重要と思われるものや、日本語の文法からみて後の学習の基礎になるようなものを、できるだけ先にするよう考慮した。
5. 各課は、それぞれ「本文」「練習」の2部から成っている。練習の内容は、それぞれそのまえに目次として示してある。練習は文型・文法事項をあつかったが、課によってはさらに語彙的なものも加えてある。また、必要に応じて「文法」の欄を設けた。
6. 「本文」は、その課であつかう文型・文法事項のいろいろな形式をできるだけたくさん盛りこんで、これを具体的な会話や文章の例として示したものである。この場合、使用者が大学生活を営む学生であることを考えて、学習者の実生活に役立ち、かつ興味をもつような話題をえらんだつもりである。
本文は、「練習」で学んだことを具体的な生活の場において活用するための学習の資料である。それゆえ、単なる読解にとどまったり、自国語に訳すことなどは主旨に反する。なお、これまでの方式になれさせる意味から、本文は特に縦書きにした。
7. 「練習目次」は、まずⅠにその課であつかう文型ならびに文法事項を実際の用例として示した。これを見ることによって、その課で学習者が何を学ぶかを知ることができる。なお、関連語彙・関連事項で特にとり上げたものは、Ⅱに列挙した。
8. 「練習Ⅰ」は、実線・点線・かっこ等を利用して、文型の理解が容易となるよう配慮し、語句の種々な組み合わせによって、その文型による表現練習ができるようくふうしてある。教授者は、単語のさしかえをすることで、教室授業での口頭練習に利用することができ、また、学習者は復習のよりどころとして参考できるようになっている。なお、文型練習における文法的解釈は、この図解された練習に習熟することでしぜんに理解できるという見地から、特に解説や訳などはつけないたてまえをとった。
9. 「練習Ⅱ」の語彙は、その課であつかわれたテーマにもとづいて関連語彙を集録し、語彙の増加をねらいとしたが、また、実生活に役立つという点を重視して、関連事項はできるだけ盛りこむよう努めた。なお、本書に使われた総語彙数は、助詞・助動詞の類を除いて、約2000語である。
10. 「文法」は、主として活用語における語の接続の仕方や語形について理解しやすいよう整理したものである。これはけっして活用形式の機械的な暗記を意味するものではない。正しい表現力の増加をねらいとし、学習者の便宜をはかって理解しやすいよう分類整理したものである。なお、文法表の作成に当たっては、主として学校文法によったけれども、学習の便

宜を考えて、多少手を加えたところもある。

11. おおよそ以上のような考慮のもとに各課の編成を行なったが、実際の教育に当たっては、必ずしも本文・練習の順序にしばられることなく、適宜その順序を変えてさしつかえない。
12. 「本文」は、実際の場面において日本語を日本語らしく使用できるようにするための練習文である。したがって、実際の場面を設定しての練習、補助教材の効果的な利用、口頭練習の積み重ね等が要求される。特にこの教科書は、40課中の前半は口頭による学習を、後半は読解を併用した学習をねらいとしているので、後半になってからは読むこと、書くことの練習にも力をそそぐことが望まれる。
13. このことは漢字学習にふかい関係をもつ。この教科書においては、いちおうかながき・ふりがな付き漢字・ふりがななし漢字の別を立てている。ふりがな付き漢字はとにかく読めることを前提とし、ふりがななし漢字は、その課で読み書きともに習得することを要求している。しかし、学習者の母国語との関連もあり、必ずしもこれにしばられる必要はない。なお本書であつかった総漢字数は、ふりがな付き漢字を含めて約 700 字である。
14. 「練習」は、個々の文型・文法事項を正しく理解し、表現に応用できるようにするための資料である。そのため、練習の用例はできるだけ多いほうが望ましい。その点、本書の用例は紙数の関係から数が限られているので、示されたいろいろな語句の組み合わせのほかに、既習の語彙を採り上げて、さし替え練習をする必要がある。さらに学習者の能力が許す場合には、語彙のわくをひろげて、幅広い日本語学習を行なうことが望ましい。
15. この教科書には、別冊の形で単語帳ならびに漢字表が用意されている。単語帳はこの教科書に現われる語彙をすべて収録し、これに訳を付けたものであるが、現在のところ英語訳および中国語訳の 2 種が用意されている。また、漢字表は新出漢字すべてを収め、その筆順表等を付けたものである。その他、練習問題、自習用テープ、視覚補助教材等もおおい公にする予定である。

森 田 良 行
秋 永 一 枝
田 村 す 子

記号の使い方

本文の中の記号

～
()

内容(たとえば会話の場面)が変わる。

場面の説明

練習の番号

I

文型、文法事項の練習

II

語彙および課の内容に関連して学ぶべき表現など。

1, 2, ……

上の各の中での練習の種類

a, b, ……

1, 2等の中の下位区分

(1), (2), ……

a, b等の中にさらに下位区分が必要なときは、これを使った。

①, ②, ……

一つ一つの練習問題に番号が必要なときは、これを使った。

練習の中の記号

…, ……

文章やことばが省略されている。

()

中のことばは省略してもさしつかえない、またはあってもなくてもよい。

[]

中のことばがある場合とない場合とあり、あるとないで本質的な違いがある。

{ }

中の上のことばと下のことばの、どちらを使っても本質的な違いがない。

☆ ただし () と重なるときは省略した。

|, ……

それにはさまれた縦に並んだいくつかのことばが、互いに置きかえられる。ただし、すべての語が全く自由に置きかえられるというわけではなく、意味によって、左の方のことばと右の方のことばとが結びつかない場合もある。大体において、文節の切れ目と一致するところには実線|を、一致しないところには破線:を用いたが、教育効果上必ずしもそれに従わなかったところもある。

☆ ただし、左端(行頭)と右端(行末)においては、省略した。また、

(), [], { } と重なる場合も省略した。

一, ……

(a) 縦の区切り線(|や:)が、そこまでで切れることをはっきりさせるために、必要があれば——を使った。

(b) 縦の区切り線の左の方と右の方のことばを一对一で対応させて練習したいとき、縦に並んだことばの間を——で区切って対応を示した。

(c) 左の方のことばのうちの上(または下)の方に書かれたものと、右の方のことばのうちの下(または上)の方に書かれたものとは、結びつかないというとき、これをはっきり示す必要があれば——を使った。

(d) 上のことばと下のことばとの置きかえにかなりの制限がある場合、——で区切った。

→, ↓, ⇨, ⇩

左(または上)のものを右(または下)のようなことばや文章に変える練習。一つ一つの表現には→, ↓を、たくさんのことばや文章のグループには⇨, ⇩を使った。

——

左のことばに対して、右のことばで応答する練習。

- } 左の二つかそれ以上のことば（または文）が右の一つのことば（または文）
 に対応するとき、必要があれば、これを使った。
 / 続きではないことばが、横に続けて書かれている場合、間を/で区切った。
 縦に並べて書くべきことばを、スペースの都合で横に並べて書き、間を/
 で区切った場合もある。
 * 一つづきの練習文が二行にわたり、続き方が一目でわからない恐れがある
 とき、はじめの行の末尾とあとの行のはじめとに、*をつけて続き方を示
 した。

これらの記号のほかの使い方 誤解が起こる恐れのないときは、これらの記号をほかの使
 い方で使った場合もある。

文法表の中の記号

- , — 練習の中の使い方と同じ。
 ∴ 語幹と語尾の間、動詞や形容詞と接続する助詞・助動詞などの間、および
 これに準ずる境い目にこれを使った。
 | 教育効果上、必ずしも学校文法の区切りに従っていない場合もある。
 | 一続きの語尾、助詞・助動詞、およびこれらの連続と、他のそれとの間を
 | で区切った。従って、いちばん左の∴の前のもの（語幹またはこれに準
 ずるもの）は、すべての|の右のものに直接続く。たとえば

買	う		い		ます		っ		て
					な				たり
					な				
					が				

には、買う、買います、買いなさい、買いながら、買って、買ったりの
 六つの形が含まれている。

上の二種類のほかに縦の区切り線が必要なときは点線∴を使った。

ひらがな

ん	わ (る) (ゑ) を	ら り る れ ろ	や ゆ よ	ま み む め も	は ひ ふ へ ほ	な に ぬ ね の	た ち つ て と	さ し す せ そ	か き く け こ	あ い う え お
---	----------------------	-----------------------	-------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------

ば	び	ぶ	べ	ぼ	だ	ぢ	づ	ぜ	ぞ	が	ぎ	ぐ	げ	ご
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

り	み	ひ	に	ち	し	き
や	ゃ	ゃ	ゃ	ゃ	ゃ	ゃ
り	み	ひ	に	ち	し	き
ゆ	ゅ	ゅ	ゅ	ゅ	ゅ	ゅ
り	み	ひ	に	ち	し	き
よ	ょ	ょ	ょ	ょ	ょ	ょ

び	び	ぢ	じ	ぎ
ゃ	ゃ	ゃ	ゃ	ゃ
び	び	ぢ	じ	ぎ
ゅ	ゅ	ゅ	ゅ	ゅ
び	び	ぢ	じ	ぎ
ょ	ょ	ょ	ょ	ょ

目 次

1	だいがく	3	21	ふ ろ 屋	213
2	ぶんがくぶのきょうしつ	13	22	夏休みの計画	223
3	大きいいぬ	21	23	かぶき ^ど 座	231
4	たなかさんのへや	35	24	かとう ^{かとう} 加藤さんの家族	241
5	こんどの日曜日 ^{よう}	47	25	天気予報	249
6	きっさてん	57	26	試 験	261
7	ともだち	65	27	電 話	273
8	じこしょうかい	75	28	け が	281
9	中村 ^も さんの下宿 ^{げしゆく}	85	29	海 水 ^{よく} 浴	293
10	たんじょう日	99	30	インタビュー	307
11	しよく ^{しよく} ぶつ ^{ぶつ} えん ^{えん} 植 物 園	107	31	方 言	317
12	古 本 ^や 屋	117	32	しよ ^{しよ} み 味	325
13	わたし的一天	127	33	す も う	335
14	か ぜ	137	34	研究会の相談	345
15	日本のきせつ	151	35	レポート	355
16	大そうじ	163	36	お 祭 り	365
17	じろう ^{じろう} 二郎さんのおにいさん	173	37	日 記	373
18	きのうの日よう日	181	38	手 紙	383
19	買 い 物	189	39	訪 問	391
20	着 物	201	40	日本語の学習	401

がくせい「あれも としょかんですか。」
せんせい「いいえ、 こうどうです。」
がくせい「ありがとうございます。」
せんせい「どういたしまして。」
がくせい「さようなら。」
せんせい「では、 また。」

— だいがく

がくせい 「せんせい、おはようございます。」

せんせい 「おはようございます。あなたは がくせいですか。」

がくせい 「はい、そうです。」

せんせい 「わたしは やまだです。あなたは どなたですか。」

がくせい 「わたしは スミスです。」

せんせい 「スミスさん、せんもんは なんですか。」

がくせい 「すうがくです。やまだせんせい、あの かたは どなたですか。」

せんせい 「たなかさんです。」

がくせい 「あの かたも せんせいですか。」

せんせい 「いいえ、そうではありません。 がくせいです。」



がくせい 「あれは なんですか。」

せんせい 「あれは きょういくがくぶです。」

がくせい 「これは なんですか。」

せんせい 「としかんです。」

学生「あれも図書館ですか。」

先生「いいえ、講堂です。」

学生「ありがとうございます。」

先生「どういたしまして。」

学生「さようなら。」

先生「では、また。」

一 大学

学生「先生、おはようございます。」

先生「おはようございます。あなたは学生ですか。」

学生「はい、そうです。」

先生「わたしは山田です。あなたはどなたですか。」

学生「わたしはスミスです。」

先生「スミスさん、専門は何ですか。」

学生「数学です。山田先生、あのかたはどなたですか。」

先生「田中さんです。」

学生「あのかたも先生ですか。」

先生「いいえ、そうではありません。学生です。」



学生「あれは何ですか。」

先生「あれは教育学部です。」

学生「これは何ですか。」

先生「図書館です。」

I.

1. あの かたは がくせい です。
2. あの かたは がくせい {では} ありません。
じゃ
3. あの かたは がくせい ですか。
はい, そうです。
いいえ, そう {では} ありません。
じゃ
4. a. あの かたは どなた ですか。
b. これは なん ですか。
5. あの かたも がくせい です [か]。

II. さようなら。—————では、また。



れんしゅう

I.

1.

わたし	は	がくせい せんせい スミス やまだ	です。
-----	---	----------------------------	-----

あの かた	は	がくせい せんせい スミスさん やまだせんせい	です。
-------	---	----------------------------------	-----

スミスさん やまださん	は	がくせい せんせい	です。
----------------	---	--------------	-----

これ
それ
あれ

は

ほん
ざっし
しんぶん
としょかん
きょういくがくぶ
こうどう

です。

2.

わたし

は

がくせい
せんせい
スミス(さん)
やまだ(さん)

{では}
じゃ} ありません。

あの かた

は

がくせい
せんせい
スミスさん
やまだせんせい

{では}
じゃ} ありません。

スミスさん
やまださん

は

がくせい
せんせい

{では}
じゃ} ありません。

これ
それ
あれ

は

ほん
ざっし
しんぶん
としょかん
きょういくがくぶ
こうどう

{では}
じゃ} ありません。

3.

あなた
あの かた

は

がくせい
せんせい
たなかさん
やまだせんせい

ですか。

はい、	{	そうです。		{	がくせい	{	です。	
		(	わたし		は)			せんせい
			あ					たなか [さん]
			の					やまだ [せんせい]
			かた					

いいえ、	{	そう { では } ありません。		{	* { では } ありません。		
		(	わたし			は)	がくせい
							せんせい
							たなか [さん]
							やまだ [せんせい]

* (	わたし	は)	せんせい	です。
			がくせい	
			スミス [さん]	

これ それ あれ	は	ほん	ですか。
		ノート	
		しんぶん	
		ざっし	
		としょかん	
		きょういくがくぶ	
		こうどう	

はい、	{	そうです。		{	です。		
		(	これ			は)	ほん
							ノート
							しんぶん
							ざっし
							としょかん
							きょういくがくぶ
あれ	こうどう						